

集落維持の観点から見た公共交通の重要性把握

社会システム計画学研究室2009年度卒業研究 川辺喬格

背景

中山間地域集落部

- ・人口流出
- ・都市部以上の高齢化率 etc...



集落そのものの消滅の危機

集落に人が住み続けないと集落維持は不可能

集落部における交通

- ・大抵が山間部であり交通手段の確保は必須
- ・高齢者が多く、自動車を運転できる人が少ない
- ・若者も少ないため、送迎も難しい

住み続けるためには公共交通が必要

しかし都市部と比べてサービスレベルは低い

このような低いサービスレベルでも住み続けるためには重要？

集落維持するために公共交通はどれほど重要か？

- ① 居住意向はどれほどか
- ② 居住継続にどれだけ公共交通は重要か
- ③ どれほどのサービスレベルが必要か

アンケート調査より把握

集落区分

集落区分	定義	備考
存続集落	55歳以上の人口が50%未満の集落	現在は、まだ維持困難とはなっていないと思われる集落
準限界集落	55歳以上の人口が50%以上の集落	現在は、まだ維持困難になっていないが将来維持困難になる可能性がある集落
限界集落	65歳以上の人口が50%以上の集落	集落の維持が最も困難となっている可能性がある集落

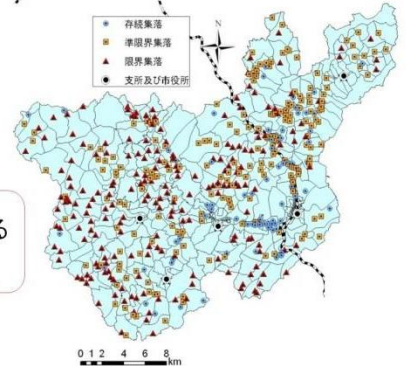


アンケート概要

分析対象地域

岡山県高梁市

多数の集落部を抱える過疎地域

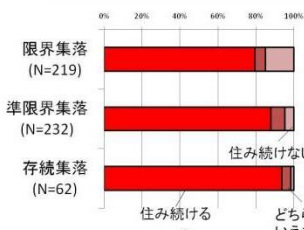


公共交通の利用状況や居住意向についてアンケート調査

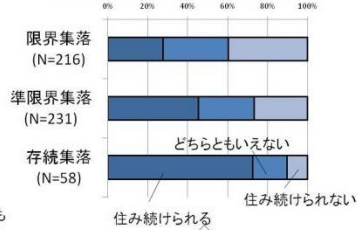
調査対象地域	岡山県高梁市
調査期間	平成21年11月14日～11月30日
配布・回収方法	郵便配布・郵便回収
配布部数	2014枚
回収部数(回収率)	997枚(49.5%)
分析対象サンプル数	548枚
主な調査内容	住居者 ・利用交通手段 ・個人属性
	個人票 ・利用する交通手段 ・公共交通に対する意識 ・本人の居住意向及び居住するための条件 ・将来世代の居住可能性及び居住するための条件

居住意向

高齢者にとって集落に住み続けようと思うか



子供や孫の世代は集落に住み続けられると思うか



ほとんどが住み続ける

特に限界集落では住み続けられないが顕著

現在は存続可能だが将来的には消滅の可能性が高い

居住要件

高齢者にとって集落部に住み続けるために何が重要か

- ・全項目が重要
- ・公共交通は相対的に低い

しかし、医療機関や福祉サービスを集落部に新たにつくるのは非現実的

これら施設へのアクセスを公共交通で提供することが精一杯の状況



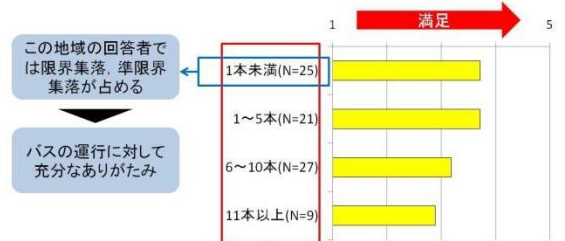
高齢者にとって公共交通は住み続けるために重要

求められるサービスレベル

運行本数について

最も利用する交通手段がバスである高齢者にアンケート

あなたのバスの運行本数に対する満足度はどれほどありますか？



この地域の回答者は限界集落、準限界集落が占める

バスの運行に対して充分なありがたみ

回答者の居住地域の最寄バス停での運行本数

特に限界集落では、本数に関わらずバスが運行されているということが重要

結論

- ① 高齢者の居住意向は高いものの、子供や孫の世代では居住できないと考える人が多いことから将来的には集落の維持が困難になると予想される
- ② 居住するために公共交通は重要であるものの、医療など他にもっと重要な項目がある。しかし、実現可能性として公共交通で他施設へアクセスを可能にさせることで精一杯の現状である。
- ③ バスの運行に関して限界集落では運行本数よりもバス路線が存在するということが重要。